第 1 2 5 回 幹 事 会

平成 2 3 年 6 月 2 日

日 本 学 術 会 議

第125回幹事会（平成23年6月2日（木））13:30～

議事次第

（公開審議）

I 前回議事要旨確認

II 諸報告

III 審議事項

1 委員会関係

提案1 国際委員会における小分科会委員の決定

提案2 分野別委員会における運営要綱の一部改正及び分科会委員の決定

2 提言等

提案3 報告「昆虫科学の果たすべき役割とその推進の必要性」（案）（農学委員会応用昆虫学分科会）

提案4 提言「農業・食料・環境をめぐる北東アジアの連携強化に向けて」（案）（農学委員会農業経済学分科会）

提案5 報告「知能的太陽光植物工場の新展開」（案）（農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム分科会）

提案6 提言「学術と産業を結ぶ基盤研究および人材育成の強化—応用物理からの提言—」（案）（総合工学委員会未来社会と応用物理分科会）

提案7 提言「老朽・遺棄化学兵器の廃棄処理の実施における保安対策—中国の遺棄化学兵器処理の開始に当たって—」（案）（総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会）

提案8 報告「巨大複雑系社会経済システムの創成力強化—科学技術駆動型イノベーション創出力強化に向けて—」（案）（総合工学委員会巨大複雑系社会経済システムの創成力を考える分科会）

3 国際会議関係

提案9 平成23年度代表派遣（平成23年7月～9月）

提案10 第11回アジア学術会議(11th Science Council of Asia Conference)への会員の派遣及び外国人の招聘

4 シンポジウム等

提案11 公開シンポジウム「緊急集会：被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて—学術コミュニティは何をすべきか」

提案12 公開シンポジウム「新しい社会的リスクへの対応—比較の中の日本—」

提案13 公開シンポジウム「『地域主権』と『新しい公共』—国際比較の視点」

提案14 公開講演会「フォーラム：東日本大震災による生態系や生物多様性への影響」

提案15 公開シンポジウム「日本における『法学』の現状と可能性—法実務・実定法学・基礎法学」

提案16 公開シンポジウム「国際ワークショップ：コミュニティベース精密農業と帯広フードバレー構想」

提案17 公開シンポジウム「シミュレーション・予測と情報公開に求められること—今・これから—」

提案18 公開シンポジウム「新時代の昆虫科学を拓く2」

- 提案19 公開シンポジウム「市民社会のなかの人文・社会科学－市民との対話－PARTⅢ」
- 提案20 公開シンポジウム「新たな歯科医療制度を考えるⅡ」
- 提案21 日本学術会議近畿地区会議学術講演会
- 提案22 公開シンポジウム「進化する生物の世界－生体高分子から生物多様性、脳-神経系から人間社会まで」
- 提案23 市民公開講演会「光触媒とメカトロニクスの世界：未来を支える科学技術」
- 提案24 公開シンポジウム「感覚器医学ロードマップ：感覚器障害の克服と支援を目指す10年間の中間報告会」
- 提案25 国際シンポジウム「東北アジアにおける地表プロセス、自然災害そして歴史的環境変動(Earth surface processes, natural disasters and historical environmental changes inNorth-east Asia)」
- 提案26 公開シンポジウム「大規模計算科学シンポジウム」
- 5 後援
- 提案27 国内会議の後援

(非公開審議)

V 非公開審議事項 1 委員会関係

- 提案28 日本学術会議連携会員の辞職の承認
- 提案29 定年により退任する会員の連携会員への就任について
- 提案30 国際委員会における小分科会委員（特任連携会員）の決定
- 提案31 分野別委員会における分科会委員（特任連携会員）の決定

資料2

第125回幹事会（6月2日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	大垣 眞一郎
副会長	広渡 清吾
副会長	唐木 英明

第一部 部長	小林 良彰
第一部 副部長	木村 茂光
第一部 幹事	酒井 啓子
第一部 幹事	白田 佳子

第二部 部長	浅島 誠
第二部 副部長	北島 政樹
第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷺谷 いづみ

第三部 部長	岩澤 康裕
第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介
第三部 幹事	永宮 正治

事務局長 齋藤 敦

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 審議付託等	1
3 賞等の推薦	1
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	1
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	1
3 機能別委員会の開催とその議題	2
4 分野別委員会の開催とその議題	3
5 課題別委員会の開催とその議題	11
6 サイエンスカフェの開催	12
7 総合科学技術会議報告	13

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
5月10日(火)	記者懇談会/G8 サミットに向けた各国学術会議の共同声明について	金澤会長、唐木副会長
5月12日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長
5月20日(金)	総理手交/G8 サミットに向けた各国学術会議の共同声明について	金澤会長
5月26日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長
5月30日(火)	科学技術・学術審議会総会(第36回)	金澤会長
6月1日(水)	第8回国際比較生理生化学会議(名古屋)	唐木副会長

(注) 部会、委員会等を除く。

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
第13回日本感性工学会大会	日本感性工学会 会長 椎塚久雄	第三部
日本熱物性シンポジウム	日本熱物性学会 会長 馬場哲也	第三部

3 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
2011年度国際交流基金賞	各部	推薦見送り
2011 B B V A 賞受賞	各部	照会中

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

なし

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 東日本大震災対策委員会 被災地域の復興ランド・デザイン分科会
(第2回)(5月9日)

①各委員からの復興ランド・デザインの意見の要点

②報告書の取りまとめ方針について ③その他

(2) 東日本大震災対策委員会 エネルギー政策の選択肢分科会
(第2回) (5月11日)

- ①「エネルギー政策の選択肢」分科会の基本的方針について
- ②選択肢の数と設定表現について
- ③選択肢の内容の詰め方と工程について ④その他

(3) 東日本大震災対策委員会 エネルギー政策の選択肢分科会
(第3回) (5月19日)

- ①代替エネルギーに関する重要度分析と各エネルギーのコスト比較開発規模のポテンシャルについて
- ②その後の調査の進展について
- ③当面の見方(中間討議用)について ④その他

(4) 東日本大震災対策委員会 被災地域の復興グランド・デザイン分科会
(第3回) (5月30日)

- ①報告書の中間取りまとめについて ②その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学者委員会 学術統計検討分科会 (第8回) (5月10日)

- ①報告書(案)について ②今後の進め方について
- ③その他

(2) 科学者委員会男女共同参画分科会 (第17回) (5月17日)

- ①対外報告(案)について ②その他

(3) 科学者委員会 学術統計検討分科会 (第9回) (5月27日)

- ①学術情報に関わる最新発展について ②報告書(案)について
- ③今後の進め方について ④その他

(4) 科学者委員会 (第42回) (5月20日)

- ①協力学術研究団体の指定について

(5) 科学者委員会 (第43回) (5月27日)

- ①日本学術会議近畿地区会議学術講演会について

(6) 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 (第21回) (5月30日)

- ①物理学・工学、地球惑星科学分野ヒアリングについて

②今後の進め方について ③その他

(7) **国際委員会 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2011 分科会** (第 21 期・第 2 回) (5 月 17 日)

- ①会議概要について
- ②プログラムについて
- ③今後の作業スケジュール
- ④講演者への招待状について
- ⑤広報資料 (リーフレット及びポスター) について
- ⑥レセプションについて
- ⑦会議報告について
- ⑧次回分科会について

(8) **選考委員会理学・工学選考分科会** (第 3 回) (4 月 28 日)

- ①前回議事要旨の確認について
- ②連携会員候補者の選考について
- ③その他

(9) **選考委員会人文・社会科学選考分科会** (第 3 回) (4 月 28 日)

- ①前回議事要旨の確認について
- ②会員候補者の選考について
- ③連携会員候補者の選考について
- ④その他

(10) **選考委員会生命科学選考分科会** (第 3 回) (5 月 6 日)

- ①前回議事要旨の確認について
- ②会員候補者の選考について
- ③連携会員候補者の選考について
- ④その他

(11) **選考委員会人文・社会科学選考分科会** (第 4 回) (5 月 12 日)

- ①前回議事要旨の確認について
- ②連携会員候補者の選考について
- ③その他

(12) **選考委員会** (第 12 回) (5 月 16 日)

- ①定年により退任する会員の連携会員への就任について
- ②その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

- (1) **心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同高校地理歴史科教育に関する分科会** (第14回) (5月7日)
 - ①高校地歴科教育改革の提言(最終版)の作成について
- (2) **心理学・教育学委員会心理学教育プログラム検討分科会** (第7回) (5月9日)
 - ①高校生の心理学教育に関するシンポジウム開催について
 - ②21期の分科会としてのまとめについて
 - ③本分科会の22期の継続について
 - ④その他
- (3) **心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会** (第8回) (5月9日)
 - ①医療心理士の国家資格化へ向けての情勢について
 - ②医療における心理職の実習の現状について
 - ③神経心理士の在り方についてのシンポジウムの計画について
 - ④その他
- (4) **言語・文学委員会科学と日本語分科会** (第10回) (5月13日)
 - ①情報化と方言(報告者 木部 暢子氏)
 - ②その他
- (5) **法学委員会「IT社会と法」分科会** (第5回) (5月14日)
 - ①報告書作成に向けての各委員の提出原稿の検討 ②その他
- (6) **史学委員会文化財の保護と活用に関する分科会** (第9回) (5月21日)
 - ①分科会の継続の可否について
 - ②提言案(8)の検討 ③その他
- (7) **経済学委員会数量的経済・政策分析分科会** (第5回) (5月21日)
 - ①平成24年度日本経済学会春季大会でのチュートリアル・セッションについて
 - ②平成25年度大会におけるチュートリアル・セッションのテーマについて
 - ③23年度の関西計量経済研究会での関連セッションの開催について
 - ④第22期日本学術会議、数量的経済・政策分析分科会の体制について
 - ⑤次回の予定 ⑥その他
- (8) **社会学委員会メディア・文化研究分科会** (第7回) (5月21日)
 - ①今後の分科会の活動について
 - ②文化研究に関する新学会設立の動きについて ③その他

(9) **地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IHDP 分科会**
(第7回) (5月26日)

- ①地球惑星科学連合 2011 年大会 IHDP 国際セッションについて
- ②日本学術会議主催 2011 年持続性国際会議について
- ③アジアの持続可能性向上研究計画について
- ④東日本大震災への対応について ⑤関連委員会・小委員会等の動静
- ⑥その他

第二部担当

(1) **健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会** (第13回) (4月28日)

- ①提言について ②その他

(2) **健康・生活科学委員会生活科学分科会** (第17回) (5月1日)

- ①「大学の教養教育に、授業科目『生活する力を育てる』を！」第3回公開講演会の開催について
- ②授業科目『生活する力を育てる』のまとめ方について
- ③生活科学系コンソーシアムの今後の活動について
- ④大学の分野別質保証について (説明者：北原和夫先生)
- ⑤その他

(3) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会合同遺伝資源分科会** (第2回) (5月6日)

- ①我が国の遺伝資源整備の推進方策について
 - ・今回の大震災で提起された遺伝資源に関する課題について
 - ・課題への対応策について
 - ・以上を踏まえた推進方策について
- ②その他

(4) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会** (第5回)
(5月9日)

- ①東日本大震災の対応について ②今年度の当該分科会の活動方針について
- ③その他

(5) **歯学委員会** (第12回) (5月10日)

- ①総会報告について ②日本の展望「歯学分野の展望」のアクションプランの取りまとめについて ③今後の活動について ④その他

(6) **歯学委員会歯学教育分科会** (第5回) (5月10日)

①歯学教育の問題点と改善方策について ②その他

(7) **農学委員会・食料科学委員会合同 CIGR 分科会** (第11回) (5月11日)

①CIGR 国際シンポジウム 2011 のプログラムの検討

②CIGR 国際シンポジウム 2011 の収支の検討

③CIGR 分科会の今後の方針について ④その他

(8) **基礎医学委員会、健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会**
(第11回) (5月12日)

①提言に向けての審議

1) 「医師の労働時間」について

2) 「健康格差」について

3) 「健康食品」について

4) 「公衆衛生大学院」について

②その他

(9) **農学委員会農学分科会** (第6回) (5月13日)

①第5回分科会 (メール会議) 議事要旨の承認について

②公開シンポジウム「食育の現状と大学附属農場等の果たすべき役割 パート3
「食」と「農」が協働する教育への期待」について

③公開シンポジウム「水田稲作を中心とした日本農業の展望と作物生産科学の果たすべき役割」について

④平成23年度農学分科会の活動について ⑤その他

(10) **心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会** (第18回)
(5月13日)

①提言 (案) の作成に向けて ②その他

(11) **統合生物学委員会** (第11回) (5月15日)

①シンポジウムの運営について ②分科会の見直しについて ③その他

(12) **薬学委員会** (第4回) (5月20日)

①日本学術会議の動向 (総会報告)

②分科会の活動報告と今後の計画 (22期に向けた活動の総括)

③提言 (案) 「国民の健康増進を支える薬学研究—レギュラトリーサイエンスを基盤とした医薬品・医療機器の探索・開発・市販後研究の高度化を目指して—」
について

④提言 (案) 「社会貢献に向けた薬学系人材の将来像の構築と教育」について

⑤日本学術会議の科学者委員会「学術の大型研究計画検討分科会」の報告

⑥その他

(13) 農学委員会・食料科学委員会合同農芸化学分科会（第3回）（5月20日）

①22期の総括と23期の活動方針について ②その他

(14) 臨床医学委員会感覚器分科会（第10回）（5月21日）

①市民公開講座について

②8月9日（火）に予定しているロードマップ中間評価検討会について

③その他

(15) 臨床医学委員会臨床研究分科会（第6回）（5月23日）

①提言分科会案作成について ②今後の手順について ③その他

(16) 臨床医学委員会出生・発達分科会（第2回）（5月25日）

①報告事案の作成について ②その他

(17) 健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会（第14回）（5月26日）

①提言について ②その他

(18) 健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会（第13回）（5月30日）

①提言について ②男女共同参画調査のまとめ ③サイエンスカフェについて

④学術連合 ⑤その他

(19) 農学委員会土壌科学分科会（第7回）（5月31日）

①東日本大震災に伴う土壌汚染に関する情報交換

②第22期日本学術会議における土壌科学分科会の取り扱い ③その他

(20) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同遺伝学分科会（第4回）

（5月31日）

①遺伝学教育（遺伝学用語を含む）について

②第21期の総括

1) 第21期の活動の総括

2) 第22期に向けて、分科会の統廃合を含めた当分科会の見直し

③東日本大震災に関する緊急提言案について

④その他

(21) 基礎医学委員会、健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会

（第12回）（5月31日）

①提言に向けての審議

- 1) 「医師の労働時間」について
 - 2) 「健康格差」について
 - 3) 「健康食品」について
 - 4) 「公衆衛生大学院」について
- ②その他

第三部担当

- (1) 材料工学・総合工学・機械工学・土木工学・健康学委員会合同 グリーン・イノベーションの材料分科会 (第3回) (5月9日)
- ①グリーン・イノベーションの材料に関する話題提供
 - ②グリーン・イノベーション実現のための材料研究課題について
 - ③報告書の目次、内容について ④シンポジウムの開催 ⑤その他
- (2) 土木工学・建築学委員会 河川流出モデル・基本高水評価検討等分科会 (第7回) (5月11日)
- ①論点の確認 ②検討結果の報告(2) ③回答骨子2(案) ④その他
- (3) 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会遺棄及び老朽化学兵器の廃棄技術に関するリスク検討小委員 (第13回) (5月16日)
- ①提言の修正について ②シンポジウムの運営について ③その他
- (4) 化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会 (第4回) (5月16日)
- ①分科会の活動報告
 - ②大型施設利用の多い学協会との連携
 - ・学協会主催シンポジウムの共同開催の可能性
 - 例) 放射光学会主催の市民講座との連携
 - ・大型施設利用の多い学協会のリーダーとのワークショップ
 - 主題) 研究成果の社会への発信、学術会議分科会との協力体制
 - ③今後の活動について
 - ④その他
 - 日本学術会議の機能強化について
 - 会員候補者、連携会員候補者の推薦について
 - その他
- (5) 機械工学委員会ロボット学分科会 (第7回) (5月17日)
- ①東日本大震災・第五次緊急提言 ②今期のまとめ方について ③その他

- (6) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP 合同分科会
(第5回) (5月17日)
①IGBP、WCRP 及び関連の動きについて(報告)
②4つの GEC 統合、再編に関する国際的な動向と国内対応について
③その他
- (7) 第三部 理科・数学・技術に関する初等中等教育検討分科会 (第7回)
(5月18日)
①分科会の「記録」について ②初等中等教育についての討議
③分科会の継続について ④その他
- (8) 総合工学委員会原子力事故対応分科会 (第2回) (5月18日)
①今後の活動方針についての議論 ②その他
- (9) 情報学委員会ウェブ・メディア社会基盤分科会 (第8回) (5月19日)
①震災関連のコンテンツ保存について ②その他
- (10) 化学委員会分析化学分科会 (第10回) (5月20日)
①活動報告とその承認 ②講演会に関する打ち合わせ
③9月までの活動計画 ④その他
- (11) 物理学委員会 IAU 分科会 (第12回) 物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会 (第13回) (5月20日)
【天文学・宇宙物理学分科会】
①学術会議諸報告
最近の動き：総会、災害対応、会員・連携会員の改選ほか(海部) 大型計画マスタープラン(海部) 物理学委員会(杉山) その他
②天文学の長期計画 今後の検討方針とスケジュール
③分野の状況報告 ④その他
【IAU 分科会】
①IAU 報告 ②IAU の新しい Division Structure (案) について
③IAU のルールの検討 ④その他
- (12) 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAVCEI 小委員会 (第3回) (5月22日)
①IUGG 分科会、地球惑星科学連合の報告
②火山学研究を取り巻く国内外の状況 ③IUGG 総会へ向けての意見交換
④その他
- (13) 地球惑星科学委員会 IMA 分科会 (第5回) (5月23日)
①報告事項

- ・ IMA 総会（2010年ブタペスト）報告
- ・ IMA 国内委員会の活動報告

②審議事項

- ・ 鉱物科学・地球科学の現状と課題について
- ・ 地球科学における大型研究
- ・ 開催予定の国際会議について

(14) 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAGA 小委員会（第2回）（5月23日）

- ①メルボルン IUGG における IAGA 役員選挙について
- ②IAGA 分科会活動について ③その他

(15) 地球惑星科学委員会 SCOR 分科会（第7回）（5月23日）

- ①SCOR ワーキング・グループ申請書の評価分担について
- ②東日本大震災へのさまざまな対応、特に学会間の連携について
- ③学術会議大型計画申請について
- ④SCOR 分科会と地球惑星科学委員会他との関係について ⑤その他

(16) 総合工学委員会エネルギーと人間社会に関する分科会（第6回）（5月24日）

- ①エネルギーと人間社会分科会の活動記録取りまとめについて
- ②エネルギー政策の選択肢分科会資料に対するコメントについて
- ③その他

(17) 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会（第4回）（5月25日）

- ①経過報告 ②国際惑星地球年(IYPE)について
- ③国際地質科学史(INHIGEO)日本大会について ④地学オリンピックについて
- ⑤東北の大震災について ⑥今期のまとめと次期への申し送り事項 ⑦その他

(18) 化学委員会高分子化学分科会（第3回）（5月25日）

- ①分科会活動報告 ②東日本大震災について
- ③今後の活動について ④その他

(19) 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 ICS 対応地質年代学小委員会
（第3回）（5月25日）

- ①委員長選出について ②小委員会の将来構想 ③その他

(20) 地球惑星科学委員会国際対応分科会 SCOSTEP 小委員会（第7回）・STPP 小委員
（第7回）合同会議（5月25日）

- ①ISWI の現状と今年度の会議予定について
- ②CAWSES-II の現状と今後の進め方について
- ③国連国際会場の日本での会場について

④IUGG における SCCTEP 国際委員の改選について ⑤その他

(21) 化学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同マイクロ・ナノエンジニアリング分科会 (第3回) (5月30日)

①研究グループ調査について ②今後の活動について ③その他

(22) 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 (第4回) (5月31日)

①IUGG に関連した国内外の報告 ②IUGG2011 年総会について
③National Report について ④その他

(23) 土木工学・建築学委員会 河川流出モデル・基本高水評価検討等分科会 (第8回) (6月1日)

①検討結果の報告 (3) ②検証・評価結果の報告 (2) ③その他

(24) 材料工学・総合工学・機械工学・土木工学・健康学委員会合同グリーン・イノベーションの材料分科会 (第4回) (6月1日)

①報告書の目次、内容、執筆担当者について
②その他

(25) 情報学委員会セキュリティ・ディペンダビリティ分科会 (第7回) (6月2日)

①東日本大震災からの復興について
話題提供: 東京大学 公共政策大学院 特任教授 奥村裕一
マイクロソフト社 技術標準部 部長 楠 正憲
②マスタープランについて ③来期の分科会について ④その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 医師の専門職自律検討委員会 (第6回) (4月28日)

①意思の表出の取りまとめ等について ②その他

(2) 医師の専門職自律検討委員会 (第7回) (5月13日)

①意思の表出の取りまとめ等について ②その他

(3) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会言語・文学分野の参照基準検討分科会拡大役員会 (第2回) (5月20日)

①今後の検討の方向性について ②その他

(4) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会言語・文学の参照基準検討分科会

(第4回) (5月20日)

- ①言語・文学分野の参照基準について（川合委員、山川委員からのヒアリング）
- ②その他

(5) 労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会（第17回）（5月20日）

- ①提言の普及活動について
 - ・印刷して活字での普及(国内出版などの可能性)
 - ・英語版の普及(海外の会議時)
 - ・そのほか
- ②提言を実現するための今後の道筋と課題(委員からの提案)
- ③その他

(6) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会学位に付記する専攻分野の名称の在り方検討分科会（第5回）（5月23日）

- ①報告書構成案について
- ②その他

(7) 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会（第3回）（5月23日）

- ①科学・技術を担う将来世代の育成方策に関する論点の抽出と議論
- ②今後の進め方について
- ③その他

(8) 医師の専門職自律検討委員会（第8回）（5月27日）

- ①意思の表出の取りまとめ等について
- ②その他

(9) 研究にかかわる『評価システム』の在り方検討委員会（第3回）（5月27日）

- ①意見交換
- ②その他

(10) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会法学分野の参照基準検討分科会（第3回）（5月30日）

- ①英国QAAサブジェクト・ベンチマーク・ステートメントについて
- ②法学分野の参照基準の策定について
- ③その他

(11) 社会のための学術としての「知の統合」推進委員会（第5回）（6月1日）

- ①提言案について
- ②その他

6 サイエンスカフェの開催

(1) 5月20日（金）18:30～20:30

場 所：サロン・ド・FUZAMBO Folio

テーマ：「福島原発事故と現状」放射線・放射能とは?その影響は?福島第一原発事故をひもとく」

講 師：柴田徳思（日本原子力研究開発機構）、二ノ方壽（東京工業大学原子炉工学研究所）

コーディネーター：室伏きみ子（日本学術会議会員、お茶の水女子大学大学院教授）

(2) 5月27日(金) 19:00～20:30

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ：「再生をめぐって～生命科学と、デザインの立場から・大震災を越えて」

講 師：本江 正茂（東北大学大学院工学系研究科 准教授）

ファシリテータ：大隅 典子（日本術会議会員、東北大学大学院医学系研究科 教授）

7 総合科学技術会議報告

1. 本会議

第97回（5月13日）

（1）科学技術戦略推進費に関する基本方針

（2）最先端研究開発戦略的強化学業の継続実施に当たっての運用について

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

5月12日：会長出席

5月19日：会長欠席

5月26日：会長出席

審 議 事 項

頁

Ⅲ 審議事項

1 委員会関係	提案1	国際委員会における小分科会委員の決定	1
	提案2	分野別委員会における運営要綱の一部改正及び分科会委員の決定	2
2 提言等	提案3	報告「昆虫科学の果たすべき役割とその推進の必要性」(案)(農学委員会応用昆虫学分科会)	6
	提案4	提言「農業・食料・環境をめぐる北東アジアの連携強化に向けて」(案)(農学委員会農業経済学分科会)	7
	提案5	報告「知能的太陽光植物工場の新展開」(案)(農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム分科会)	8
	提案6	提言「学術と産業を結ぶ基盤研究および人材育成の強化—応用物理からの提言—」(案)(総合工学委員会未来社会と応用物理分科会)	9
	提案7	提言「老朽・遺棄化学兵器の廃棄処理の実施における保安対策—中国の遺棄化学兵器処理の開始に当たって—」(案)(総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会)	10
	提案8	報告「巨大複雑系社会経済システムの創成力強化—科学技術駆動型イノベーション創成力強化に向けて—」(案)(総合工学委員会巨大複雑系社会経済システムの創成力を考える分科会)	11
3 国際会議関係	提案9	平成23年度代表派遣(平成23年7月～9月)	12
	提案10	第11回アジア学術会議(11th Science Council of Asia Conference)への会員の派遣及び外国人の招聘	16
4 シンポジウム等	提案11	公開シンポジウム「緊急集会：被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて—学術コミュニティは何をすべきか」	20
	提案12	公開シンポジウム「新しい社会的リスクへの対応—比較の中の日本—」	22
	提案13	公開シンポジウム「『地域主権』と『新しい公共』—国際比較の視点」	24
	提案14	公開講演会「フォーラム：東日本大震災による生態系や生物多様性への影響」	26
	提案15	公開シンポジウム「日本における『法学』の現状と可能性—法実務・実定法学・基礎法学」	29
	提案16	公開シンポジウム「国際ワークショップ：コミュニティベース精密農業と帯広フードバレー構想」	30
	提案17	公開シンポジウム「シミュレーション・予測と情報公開に求められること—今・これから—」の開催について	32
	提案18	公開シンポジウム「新時代の昆虫科学を拓く2」	34
	提案19	公開シンポジウム「市民社会のなかの人文・社会科学—市民との対話—PARTⅢ」	36
	提案20	公開シンポジウム「新たな歯科医療制度を考えるⅡ」	38
	提案21	日本学術会議近畿地区会議学術講演会	40
	提案22	公開シンポジウム「進化する生物の世界—生体高分子から生物多様性、脳-神経系から人間社会まで」	41
	提案23	市民公開講演会「光触媒とメカトロニクスの世界：未来を支える科学技術」	43
	提案24	公開シンポジウム「感覚器医学ロードマップ：感覚器障害の克服と支援を目指す10年間の中間報告会」	45
	提案25	国際シンポジウム「東北アジアにおける地表プロセス、自然災害そして歴史的環境変動(Earth surface processes, natural disasters and historical environmental changes in North-east Asia)」	47
	提案26	公開シンポジウム「大規模計算科学シンポジウム」	49
5 後援	提案27	国内会議の後援	52

1	
幹事会	1 2 5

提 案

国際委員会における小分科会委員の決定

- 1 提案者 国際委員会委員長
- 2 議 案 国際委員会における小分科会委員の決定
- 3 提案理由 下記の国際委員会における小分科会委員の決定をする必要があるため。

記

- 委員の決定（追加1件）

（ 国際委員会アジア学術会議分科会 S C A 共同プロジェクト小分科会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
安成 哲三	名古屋大学地球水循環研究センター教授	第三部会員
寶 馨	京都大学防災研究所教授	連携会員

2	
幹事会	1 2 5

提 案

分野別委員会運営要綱の一部改正及び分科会委員の決定について

- 1 提案者 (議案(1)について)
地域研究委員会委員長
(議案(2)について)
第一部部長、第三部部長
- 2 議 案 (1)分野別委員会運営要綱の一部改正(新規設置1分科会)
(2)分野別委員会の分科会委員の決定(2件)
- 3 提案理由 下記の分野別委員会における分科会の設置に伴い運営要綱を一部改正するとともに、分科会委員を決定する必要があるため。

分野別委員会運営要綱(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄の掲げる規定をこれに対応する改正後の欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改正後					改正前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考
(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)	
地域研究委員会	地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会	近隣地域から地球全体に至る様々な空間スケールで発現している自然的・人文社会的諸現象とその相互関係及びそれらを表現する地図・地理空間情報を扱う地理教育のありかたについて検討し、提言を行う。	30名以内の会員又は連携会員		地域研究委員会	地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会	近隣地域から地球全体に至る様々な空間スケールで発現している自然的・人文社会的諸現象とその相互関係及びそれらを表現する地図・地理空間情報を扱う地理教育のありかたについて検討し、提言を行う。	30名以内の会員又は連携会員	
	(略)	(略)	(略)			(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会大学教育の分野別質保証検討分科会	地域研究に関連する3分野(地域研究、地理学、人類学)についての大学教育の質保証の審議に関すること	10名以内の会員又は連携会員		(新規設置)				
(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)	

附則

この決定は、決定の日から施行する。

地域研究委員会分科会の設置について

分科会等名：地域研究委員会大学教育の分野別質保証検討分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	地域研究委員会
2	委員の構成	10名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	大学教育の分野別質保証の在り方に関する審議依頼に対して日本学術会議が平成 22 年 8 月 17 日に回答を行った「大学教育の分野別質保証の在り方について」に基づき、地域研究に関連する3分野（地域研究、地理学、人類学）について、大学教育の質保証に関する審議を行う。
4	審議事項	地域研究に関連する3分野（地域研究、地理学、人類学）についての大学教育の質保証に関すること。
5	設置期間	常設
6	備考	

○委員の決定（新規 1件）

（ 地域研究委員会大学教育の分野別質保証検討分科会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小杉 泰	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科教授	第一部会員
内堀 基光	放送大学教養学部教授	連携会員
大津留 智恵子	関西大学法学部教授	連携会員
岡本 耕平	名古屋大学大学院環境学研究科教授	連携会員
栗本 英世	大阪大学大学院人間科学研究科教授	連携会員
戸所 隆	高崎経済大学地域政策学部教授	連携会員
羽場 久美子	青山学院大学国際政治経済学部教授	連携会員

○委員の決定（追加 1件）

（ 総合工学委員会原子力事故対応分科会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備考
浅岡 顕	名古屋大学名誉教授、(財)地震予知総合研究振興会副首席研究員	連携会員
堀 宗朗	東京大学地震研究所教授	連携会員

3	
幹事会	1 2 5

提 案

報告「昆虫科学の果たすべき役割とその推進の必要性」

- 1 提 案 者 農学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 農学委員会応用昆虫学分科会においてこれまで審議してきた結果を別添のとおり取りまとめたので、報告としてこれを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第4号の「報告」として取り扱うこと。

4	
幹事会	1 2 5

提 案

提言「農業・食料・環境をめぐる北東アジアの連携強化に向けて」

- 1 提 案 者 農学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「農業・食料・環境をめぐる北東アジアの連携強化に向けて」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

5	
幹事会	1 2 5

提 案

報告「知能的太陽光植物工場の新展開」

- 1 提 案 者 農学委員会委員長、食料科学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム分科会においてこれまで審議してきた結果を別添のとおり取りまとめたので、報告としてこれを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第4号の「報告」として取り扱うこと。

6	
幹事会	1 2 5

提 案

提言「学術と産業を結ぶ基盤研究および人材育成の強化
－応用物理からの提言－」

- 1 提案者 総合工学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「学術と産業を結ぶ基盤研究および人材育成の強化－応用物理からの提言－」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと

7	
幹事会	1 2 5

提 案

提言「老朽・遺棄化学兵器の廃棄処理の実施における保安対策
－中国の遺棄化学兵器処理の開始に当たって－」

- 1 提案者 総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「老朽・遺棄化学兵器の廃棄処理の実施における保安対策－
中国の遺棄化学兵器処理の開始に当たって－」を別添のとおり取り
まとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表
したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと

8	
幹事会	1 2 5

提 案

報告「巨大複雑系社会経済システムの創成力強化
－科学技術駆動型イノベーション創出力強化に向けて－」

- 1 提案者 総合工学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 総合工学委員会巨大複雑系社会経済システムの創成力を考える分科会において、これまで審議してきた結果を別添のとおり取りまとめたので、報告としてこれを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第4号の「報告」として取り扱うこと

9	
幹事会	1 2 5

提 案

平成23年度代表派遣について（平成23年7月～9月）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考> 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

(派遣者の選考)

- 第19条** 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。
- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	第15回国際地図学協会総会・第25回国際地図学会議	7月3日	6日	パリ	森田 喬 連携会員 法政大学デザイン工学部 教授	IGU分科会 第1区分
		～ 7月8日		フランス		
2	第15回国際地図学協会総会・第25回国際地図学会議	7月3日	6日	パリ	熊木 洋太 連携会員 専修大学 文学部 教授	IGU分科会 第1区分
		～ 7月8日		フランス		
3	国際人類民族科学連合中間会議 2011	7月5日	4日	パース	金澤 英作 特任連携会員 日本大学 松戸歯学部 教授	地域研究委員会 第3区分
		～ 7月8日		オーストラリア		
4	南極研究科学委員会評議会・議長 会合(SCAR EXCOM/ COs meeting)	7月16日	4日	エジンバラ	山内 恭 特任連携会員 情報・システム研究機構国立極地研究所 教授・副所長	地球惑星科学委員会国際対応分科会 第2区分
		～ 7月19日		英国		
5	第14回国際科学基礎論会議	7月19日	8日	ナンシー	飯田 隆 連携会員 日本大学 文理学部 教授	IUHPS分科会 第1区分
		～ 7月26日		フランス		
6	第18回国際第四紀学連合大会	7月20日	8日	ベルン	齋藤 文紀 特任連携会員 独立行政法人 産業技術総合研究所 上席研究員	INQUA分科会 第1区分
		～ 7月27日		スイス		
7	第18回国際第四紀学連合大会	7月20日	8日	ベルン	鈴木 毅彦 特任連携会員 首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 教授	INQUA分科会 第1区分
		～ 7月27日		スイス		
8	第46回IUPAC総会/第43回IUPAC会 議	7月27日	10日	サンフアン	長谷川 美貴 特任連携会員 青山学院大学 理工学部 准教授	IUPAC分科会 第1区分
		～ 8月5日		プエルトリコ		

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
9	第46回IUPAC総会/第43回IUPAC会議	7月27日	10日	サンフアン	川島 信之 特任連携会員 社団法人 日本化学会 常務理事	IUPAC分科会 第1区分
		～ 8月5日		プエルトリコ		
10	第30回国際電波科学連合(URSI)総会	8月13日	8日	イスタンブール	小林 一哉 特任連携会員 中央大学 理工学部 教授	URSI分科会 第1区分
		～ 8月20日		トルコ		
11	第30回国際電波科学連合(URSI)総会	8月13日	8日	イスタンブール	山崎 恒樹 特任連携会員 日本大学 理工学部 教授	URSI分科会 第1区分
		～ 8月20日		トルコ		
12	第22回国際結晶学連合会議	8月22日	9日	マドリード	甲斐 泰 特任連携会員 福井工業大学 工学部 教授	IUCr分科会 第1区分
		～ 8月30日		スペイン		
13	第22回国際結晶学連合会議	8月22日	9日	マドリード	若槻 壮市 特任連携会員 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学 研究所 教授	IUCr分科会 第1区分
		～ 8月30日		スペイン		
14	第18回国際自動制御連盟世界大会・総会・理事会・関連役員会	8月28日	6日	ミラノ	佐野 昭 連携会員 慶応義塾大学 理工学部 名誉教授	IFAC分科会 第1区分
		～ 9月2日		イタリア		
15	第18回国際自動制御連盟世界大会・総会・理事会・関連役員会	8月28日	6日	ミラノ	片山 徹 特任連携会員 同志社大学 文化情報学部 教授	IFAC分科会 第1区分
		～ 9月2日		イタリア		
16	世界工学団体連盟理事会、総会及び2011年世界技術者会議	9月2日	8日	ジュネーブ	石井 弓夫 特任連携会員 株式会社 建設技術研究所 相談役	WFEO分科会 第1区分
		～ 9月9日		スイス		

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
17	2011年度海洋研究科学委員会 (SCOR)執行理事会	9月12日	4日	ヘルシンキ	池田 元美 特任連携会員 北海道大学大学院 環境科学院 名誉教授	SCOR分科会 第2区分
		～ 9月15日		フィンランド		
18	哲学系諸学会国際連合運営委員会	9月18日	4日	ツレス	佐々木 健一 連携会員 日本大学 文理学部 教授	哲学委員会 第3区分
		～ 9月21日		クロアチア		

10	
幹事会	125

提 案

第 11 回アジア学術会議(11th Science Council of Asia Conference)への 会員の派遣及び外国人の招聘

- 1 提案者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 第 11 回アジア学術会議(11th Science Council of Asia Conference)に以下のとおり会員を派遣し、また外国人を招聘することとしたため。
- 4 派遣及び招聘者 別添参照
- 5 用務期間 平成 23 年 7 月 4 日(月)～6 日(水)
- 6 派遣場所 ウランバートル(モンゴル)
- 7 開催趣旨 アジア学術会議(SCA)は、アジア地域における学術的な共同研究と協力を促進するため、日本学術会議の提唱に賛同したアジア各国の科学アカデミー等により平成 12(2000)年に設立された。現在、11 カ国 19 の学術機関・省庁・研究機関により構成されており、事務局は日本学術会議が行っている。
第 1 回会議は、平成 13(2001)年にタイで開催され、以後加盟各国で持ち回り開催しており、本年 7 月に第 11 回アジア学術会議をモンゴル・ウランバートルにおいて開催する予定。

第11回アジア学術会議(11th Science Council of Asia Conference)

派遣及び招聘予定者名簿

○ 会員派遣者(12名)

氏名	職名※	参加予定の会議、プロジェクト等
金澤 一郎	日本学術会議連携会員(前会長)	SCA総会&SCA国際シンポジウム(スピーカー)
唐木 英明	日本学術会議会長代行	SCA総会 & 理事会
村岡 洋一	日本学術会議会員	SCA総会 & 理事会、SCA国際シンポジウム(モデレーター)
白田 佳子	日本学術会議会員	SCA総会&理事会、SCA国際シンポジウム(プレゼンター)
安成 哲三	日本学術会議会員	SCA国際シンポジウム(スピーカー) SCA共同プロジェクト:アジアにおける水関連災害
竇 馨	日本学術会議連携会員	SCA共同プロジェクト:アジアにおける水関連災害
開發 一郎	日本学術会議特任連携会員	SCA共同プロジェクト:アジアにおける水関連災害
藤井 省三	日本学術会議会員	SCA共同プロジェクト:アジアにおけるポップカルチャー
三澤 真美恵	日本学術会議特任連携会員	SCA共同プロジェクト:アジアにおけるポップカルチャー
広川 佐保	日本学術会議特任連携会員	SCA共同プロジェクト:アジアにおけるポップカルチャー
奈良 由美子	日本学術会議特任連携会員	SCA国際シンポジウム(スピーカー)
土光 智子	日本学術会議特任連携会員	SCA共同プロジェクト:オープンなデータと知識の共有環境

○ 外国人招聘者(14名)

氏名	国名	参加予定のプロジェクト等
Liikun Ai	中国	SCA共同プロジェクト:アジアにおける水関連災害
Muhammad Dirhamsyah	インドネシア	SCA共同プロジェクト:アジアにおける水関連災害
Thada Sukhapunaphan	タイ	SCA共同プロジェクト:アジアにおける水関連災害
Wenbo Chen	中国	SCA共同プロジェクト:オープンなデータと知識の共有環境
Kim Yangsu	韓国	SCA共同プロジェクト:アジアにおけるポップカルチャー
Uganda Kwan	シンガポール	SCA共同プロジェクト:アジアにおけるポップカルチャー
Robert Delinom	インドネシア	SCA国際シンポジウム(スピーカー)
Simon C. Lin	台湾	SCA共同プロジェクト:アジアにおけるE-サイエンスの開発
K. Locana Gunaratna	スリランカ	オブザーバー(スリランカ国家科学アカデミー)
Surendra Raj Kafle	ネパール	オブザーバー(ネパール科学技術アカデミー)

※職名は7月4日~6日時点の想定

第 11 回アジア学術会議(SCA Conference)の開催について

1. アジア学術会議とは

アジア学術会議 (SCA) は、アジア地域における学術的な共同研究と協力を促進するため、日本学術会議の提唱に賛同したアジア各国の科学アカデミー等により平成 12 年 (2000 年) に設立された国際学術団体である。

現在、中国、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの 11 カ国の 19 の学術機関・省庁・研究機関により構成されており、事務局は日本学術会議が行なっている。

第 1 回会議は平成 13 年 (2001 年) にタイで開催され、以後加盟各国で持ち回り開催を実施している。本年 (平成 23 年 (2011 年)) は、第 11 回会議をモンゴル・ウランバートルにおいて開催の予定。

なお、第 11 回会議において、バングラデシュ (バングラデシュ科学アカデミー-Bangladesh Academy of Sciences: BAS) が新規加盟の予定。

2. 第 11 回会議の概要

(1) 主催

アジア学術会議、モンゴル科学アカデミー (Mongolian Academy of Sciences: MAS)

(2) 日程、場所

- ① 日程 平成 23 年 (2011 年) 7 月 4 日 (月) ～6 日 (水)
- ② 場所 モンゴル政府宮殿、モンゴル科学アカデミー、ウランバートルホテル、
モンゴル・日本人材開発センター (ウランバートル)

(3) テーマ

Combating Land Degradation in Asia
(アジアの土地荒廃克服に向けた挑戦(仮))

(4) 参加予定者

日本学術会議会員・連携会員、アジア学術会議のメンバー (中国、インド、インドネシア、日本、大韓民国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム: 11 か国)、新規加盟予定国・機関 (バングラデシュ)、オブザーバー参加予定国 (カンボジア、ネパール、スリランカ等)、外国人招へい者、加盟国等の政府・学術機関等

(5) 主な行事内容

- ① 国際シンポジウム (7 月 5 日)

テーマ「Combating Land Degradation in Asia」の下、セッション A (Current Status and Future Strategies relating to Desertification and Land Degradation/ Land Cover in Asian countries (アジア諸国における砂漠化や土地荒廃/土地被覆に関連する現状と将来計画 (仮))、セッション B (Information, Assessment and Mapping of Land Degradation and Desertification (土地荒廃と砂漠化についての情報、評価、及びマッピング(仮))、セッション C (Land Cover Change and Urban Land Planning (土地被覆の変化と都市計画 (仮)) の各セッションによる発表等の後、パネルセッション (Issues in Mongolia from Scientific Point of View (科学的見地から見たモンゴルの諸問題 (仮)) 等を行う予定。

② SCA 共同プロジェクト(7月4日)

- ・ Monitoring and Prediction for Early Warning against Water-Related Disasters in Asia – Towards Integrated Research (アジアにおける水関連の災害への早期警報のためのモニタリングと予測 (仮))
- ・ Developing E-Science in Asia (アジアにおける E-サイエンスの開発 (仮))
- ・ Open Data and Knowledge Environment for Innovative Research on Poverty Free and Ecosystem Protection in Asia (ODKE) (アジアにおける貧困解消及び環境保全に関する革新的研究のためのオープンなデータと知識の共有環境(仮))
- ・ Pop Culture in Asia (アジアにおけるポップカルチャー(仮))

③ 総会、理事会(7月4日、6日)等

- ・ 新加盟国・機関(バングラデシュ)の承認
- ・ 定款・細則の改正について
- ・ 次回開催国について
- ・ 活動報告について
- ・ その他

1 1	
幹事会	1 2 5

提 案

公開シンポジウム「緊急集会：被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて
—学術コミュニティは何をすべきか?」の開催について

1. 提案者 統合生物学委員会委員長、基礎生物学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：統合生物学委員会自然史・古生物学分科会
2. 共 催：自然史学会連合
3. 後 援：日本古生物学会、日本人類学会、日本植物分類学会、生物多様性 JAPAN
4. 日 時：平成23年6月6日（月）13：30～17：10
5. 場 所：日本学術会議 6階会議室 6-C（1～3）
6. 分科会の開催：分科会開催予定
7. 開催趣旨：東日本大震災による自然史標本及びその収蔵施設被害の状況を把握し、迅速な救済を支援するとともに、将来にわたり標本と施設を激甚災害から守るための対策を学術会議として提言するために、情報収集と意見交換を行う。
8. 次 第：
 - 第一部：13:30-16:10：いまを知る
 - 13:30-13:35：開催あいさつ
 - 西田治文（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）
 - 13:35-13:45：緊急集会の趣旨について

真鍋真（日本学術会議連携会員、国立科学博物館主任研究員）

13:45-14:05：文化財レスキューについて

六川真五（東京文化財研究所研究支援推進部部长）

14:05-14:25：岩手県の状況報告

大石雅之（岩手県立博物館）

14:25-14:45：宮城県の状況報告

佐々木理（東北大学総合学術博物館）

14:45-15:05：福島県の状況報告

竹谷陽二郎（福島県立博物館）

（休憩：15:05-15:30）

15:30-15:50：水族館の事例報告

岩田雅光（（財）ふくしま海洋科学館生物多様性プロジェクト担当）

15:50-16:10：「岩手県山田町に寄贈した海藻標本について」

吉崎誠（東邦大学名誉教授）

第二部：16:10-17:00：具体的なアクションプランを作るために、これからを考える

進行：西田治文（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

真鍋真（日本学術会議連携会員、国立科学博物館主任研究員）

登壇者：第一部の報告者に加えて、文科省社会教育局及び文化庁担当者などパネリストによる討論。さらに数名の指定討論者を指名予定。

17:00-17:10：結語

斎藤靖二（日本学術会議連携会員、神奈川県立生命の星、地球博物館館長）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

1 2	
幹事会	1 2 5

提 案

公開シンポジウム「新しい社会的リスクへの対応ー比較の中の日本ー」の開催について

- 1 提案者 政治学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議政治学委員会政治過程分科会
日本比較政治学会
2. 日 時 平成 23 年 6 月 19 日（土）14:00-16:00
3. 場 所 北海道大学（札幌キャンパス）
4. 分科会 開催しない
5. 開催趣旨

脱工業化の進展にともない、これまで人々の生活保障を支えてきた雇用と家族の安定が揺らいだ状況は、「新しい社会的リスク」という言葉で表される。新しい社会的リスクに対応するため、西ヨーロッパ・北欧の福祉国家の多くは、家庭と仕事の両立を可能にするための公的保育・介護の拡大や、若年者の雇用促進のための職業訓練の充実といった新たな施策を採用すると同時に、年金、失業保険、生活保護など既存の社会保険・公的扶助プログラムの一部削減や市場原理の導入などを行っている。

少子高齢化や非婚化の進行、虐待や教育崩壊など家族や子どもの危機が取りざたされる日本においても、新しい社会的リスクへの対応は政策課題となっている。日本政治は、家族主義的福祉レジームの機能不全、教育に関する公私の間の新たな役割分担、そして地域コミュニティの福祉供給機能の再構築といった課題に向き合っている。しかし、先行研究の多くはヨーロッパ諸国にのみ注目しており、日本における新しい社会的リスクの現れ方やそれへの対応の特徴を明らかにしようとする試みは不十分である。

本シンポジウムでは、新しい社会的リスクをめぐる展開しつつある日本の政治過程の一端を比較の中で明らかにすることを目的とし、日本の事例をとりあげる2つの報告と、スコットランドの経験から日本へのインプリケーションを探る第3の報告とを組み合わせる。

6. 次 第

【司 会】

小林良彰（日本学術会議会員・政治過程分科会委員、慶應義塾大学法学部教授）

【報告者】

- ① 辻由希（日本学術振興会特別研究員）
「日本型福祉レジームの再編と家族ケアの社会化を中心にー」
- ② 徳久恭子（立命館大学大学院公務研究科准教授）
「日本型福祉・生産レジームの再編と教育」
- ③ 淵元初姫（法政大学法学部兼任講師）
「スコットランド型福祉国家の再編と地域社会ー社会的包摂政策をめぐって」

【討論者】

新川敏光（日本学術会議連携会員・政治過程分科会委員長、京都大学法学部教授）

質疑応答

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

1 3	
幹事会	1 2 5

提 案

公開シンポジウム『『地域主権』と『新しい公共』—国際比較の視点』の開催について

- 1 提案者 政治学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること

記

主 催 日本学術会議政治学委員会比較政治学分科会
日本比較政治学会
北海道大学大学院法学研究科附属高等法政策研究センター

1. 日 時 平成23年6月19日（日）午後4：00～6：00
2. 場 所 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W203号室
3. 分科会 開催予定 無

4. 開催趣旨

現在の日本社会は少子・高齢化が進み、経済格差が拡大して「無縁社会」の様相を呈している。しかし、その対策を講じるべき行政の側でも、これまでの国家中心の行政は財政的に余裕がなく、また多様化した社会的ニーズに十分応えられない状況である。

こうして多様なニーズに即した対策を講じるために地方分権化が推進され、自治体の決定権を強化すべく「地方主権」が唱えられるに至っているが、自治体の行政も効果的な政策を企画立案・実施するのは容易でなく、地域住民が政策の展開に意欲的に参加・協力することが不可欠になっている。それは、ガバナンスをめぐる「人間関係資本(social capital)」の拡充とも言い換えることができ、一般市民が社会的活動に正規の参加者として積極的に関与する「新しい公共」の創出を意味している。

このような「新しい公共」に根差した「地方主権」は、東日本大震災が生じて国家的な対策が急務になった現在も、必要性が減退したどころか、被災地の再興や、ひいては日本自体の発展のために益々その重要性が高まっていると言える。

本シンポジウムでは、日本の課題を比較政治学の研究成果を活用して国際的な事例も参考にしながら、広くかつ深く議論することを目的にしている。

5. 次 第

開会の辞 五十嵐武士（日本学術会議連携会員・比較政治学委員会委員長、桜美林大学大学院国際学研究科教授）

司 会 新川敏光（日本学術会議連携会員、京都大学法学研究科教授）

報告者

政権交代と「地域主権」構想 山口二郎（北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授）

スウェーデンの観点から 穴見 明（大東文化大学法学部教授）

菅内閣の「新しい公共」構想から 坪郷 實（早稲田大学社会科学部教授）

討論者 辻中 豊（日本学術会議連携会員・比較政治学委員会副委員長、筑波大学人文
社会科学研究科教授）

6. 関係部の承認の有無：第一部承認

1 4	
幹事会	1 2 5

提 案

公開講演会「フォーラム：東日本大震災による生態系や生物多様性への影響」の開催について

1. 提案者 基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、環境学委員会
2. 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会生態科学分科会、環境学委員会自然環境保全再生分科会
2. 後 援：日本生態学会
3. 日 時：平成23年6月28日（火）13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議6階会議室 6 - C（1～3）
5. 分科会の開催：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震および津波により、東北地方から関東にかけての広い範囲で人間生活と自然環境に甚大な被害がもたらされた。おびただしい数の家屋や施設が崩壊し、3万人近くの人々の命が奪われた。沿岸部を中心に干潟、藻場、海岸林などが大規模に失われ、がれきの中にうずもれた。一方、地震と津波により原子力発電所が損壊、そして水素爆発を起こし、そこから放射性物質が海や土壌、大気中に放出されている。この放射性物質の放出は、震災後1か月半を過ぎても止んでいない。

こうした地震や津波、放射性物質の放出による影響のうち、産業や人の健康にかかわる部分については、いろいろな場や機会できりあげられている。しかし、人のくらしや生命を支え、農林水産業などを支える生態系や生物多様性への影響については、ほとんど議論されていない。地震や津波、そして放射性物質の放出は、関連地域の生態系や生物多様性にいったいどれだけの被害を及ぼしたのか。また今後、被害を受けた生態系や生物多様性は、どのように回復していくのだろうか。私たちはそれに対して、何ができるのだろうか。

このフォーラムでは、生態科学、および自然環境保全・再生学的な視点から、こうした生態系や生物多様性への被害の実態評価、今後の回復過程の短期的・長期的モニタリング、可能な自然再生などのあり方、また、津波の際に干潟や海岸林の存在が、災害を軽減したかどうかなどの話題をとりあげ、参加者とともに議論していきたい。

7. 次 第：

13:00～13:15 開会にあたって

日本学術会議生態科学分科会から

松本忠夫（日本学術会議連携会員・放送大学教養学部教授）

本フォーラムの趣旨説明

樋口広芳（日本学術会議連携会員・東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13:15-16:00 第一部 話題提供

1. 東日本大震災は生態系や生物多様性にどれだけの影響を及ぼしたのか
原慶太郎（東京情報大学環境情報学科教授）
2. 日本列島弧の生物多様性と原子力発電所—未来への希望と負の遺産—
加藤真（日本学術会議連携会員・京都大学大学院人間・環境学研究科教授）
3. 放射線がもたらす突然変異：健康と生態系への影響をどう考えればよいか
矢原徹一（日本学術会議連携会員・九州大学大学院理学研究院教授）
4. 放射能汚染が鳥類の繁殖、生存、分布に及ぼす影響—チェルノブイリ原発事故 25 年後の鳥の世界—
樋口広芳（日本学術会議連携会員・東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
5. 今後も続く被害の影響を短期的、長期的にどうモニタリングしていくのか
中静透（日本学術会議連携会員・東北大学大学院生命科学研究科教授）
6. 自然生態系と災害—干潟や海岸林が災害を軽減したか—
向井宏（日本学術会議連携会員・京都大学フィールド科学教育研究センター特任教授）
7. 自然の回復と再生の視点から
鷺谷いづみ（日本学術会議二部会員・東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

16:00～16:15 休憩

16:15～17:00 第二部 パネルディスカッション

司会：松本忠夫（日本学術会議連携会員・放送大学教養学部教授）

パネラー：

原慶太郎（東京情報大学総合情報学部環境情報学科教授）

加藤真（日本学術会議連携会員・京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

矢原徹一（日本学術会議連携会員・九州大学大学院理学研究院教授）

樋口広芳（日本学術会議連携会員・東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

中静透（日本学術会議連携会員・東北大学大学院生命科学研究科教授）

向井宏（日本学術会議連携会員・京都大学フィールド科学教育研究センター
特任教授）

鷺谷いづみ（日本学術会議二部会員・東京大学大学院農学生命科学研究科教
授）

永田俊（東京大学理学系研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

15	
幹事会	125

提 案

公開シンポジウム「日本における『法学』の現状と可能性—法実務・実定法学・基礎法学」の開催について

- 1 提案者 法学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議法学委員会、基礎法学系学会連合（日本法社会学会・日本法哲学会・比較法学会・法制史学会・比較家族史学会・民主主義科学者協会法律部会）：
共催 早稲田大学 GCOE「成熟市民社会型企業法制の創造」
2. 日 時 平成 23 年 7 月 9 日（土）13：00～18：00
3. 場 所 早稲田大学 26 号館大隈記念タワー（地下）多目的ホール
4. 開催趣旨

法学の営みを社会のなかで総体としてみれば、主要な分野としての実定法学（現行法についての法解釈学）を中心に、一方で裁判や行政において展開する法実務、他方で法と法学を歴史的、哲学的、比較的、かつ、社会的に観察する基礎法学が相互に関連しながら現象している。この相互に関連しあつた総体の現状と可能性を分析することを通じて法学の新たな様相を明らかにすることが本シンポジウムの目的である。現在日本では、社会の中の法律家のあり方、また法曹養成のあり方が重要な社会的テーマになっており、本シンポジウムはこれについて市民との対話を広げるための時宜にかなった取組みとしても位置づけている。

5. 次 第

開会挨拶 早稲田大学 GCOE「成熟市民社会型企業法制の創造」拠点代表

企画趣旨説明・司会 榎澤 能生（日本学術会議連携会員、早稲田大学法学学術院教授）

- 始まりの法律学—実務・立法・解釈 岩谷 十郎（慶應義塾大学法学部教授）
- 「実定法と司法行政—民事法解釈に及ぼす戸籍実務の影響力—」
奥山 恭子（横浜国立大学国際社会科学部教授）
- 公法学と法実務・基礎法学 岡田 正則（早稲田大学法務研究科教授）
- 法実務への寄与のための法学の課題—裁判官報酬減額問題と情報公開訴訟を素材に—馬場 健一（神戸大学大学院法学研究科教授）
- 民事裁判例における時代思潮の影響（仮） 岡 孝（学習院大学法学部教授）
- 法解釈学における理論構築と基礎法学 笹倉 秀夫（早稲田大学法学学術院教授）

総合討論

司 会 嶋津 格（日本学術会議連携会員、千葉大学法経学部教授）
新田一郎（東京大学法学部教授）

閉会挨拶 広渡 清吾（日本学術会議副会長、法学委員会委員、専修大学法学部教授）

6. 関係部の承認の有無：第一部承認

1 6	
幹事会	1 2 5

提 案

公開シンポジウム「国際ワークショップ：コミュニティベース精密農業と帯広フードバレー構想 (International Workshop on Obihiro Food-valley Strategy with Community-based Precision Agriculture)」の開催について

1. 提案者 農学委員会委員長・食料科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム分科会，JST CREST プロジェクト「超節水精密農業技術の開発」，精密農業アジア会議
2. 後 援：帯広市，帯広畜産大学
3. 日 時：平成23年7月6日（水）14：00～17：00
4. 場 所：帯広市 十勝プラザ
5. 分科会：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

生命・農学および農業情報システム学分野の幅広い学術横断交流と地域の食農産業発展に資するため，第4回精密農業アジア会議（2011.7.4-7，帯広市等主催）に際して，一般公開事業として表記シンポジウムを企画する。

コミュニティベース精密農業は知的営農集団を対象にした農場マネジメント戦略の体系であり，帯広市の食農産業振興をめざすフードバレー構想の農業基盤強化の枠組みを提供することができる。そこで本ワークショップでは，精密農業のコンセプト，衛星測位・リモートセンシング技術，ビジネスモデル，精密農業導入の社会実験などに関する学術交流，および帯広市のフードバレー構想を題材にした市民向けの科学対談を行う。

7. 次 第:

開会あいさつ：野口 伸（日本学術会議二部会員、北海道大学大学院農学研究院教授）

I 講演（14：10～15：00）

- 1) Mr. Mark Vanacht（マーク バナハト）（国際農業ビジネスコンサルタント、ミズーリ州土壌・水保全学会長）
“Water and Foods in business perspective”
「ビジネスの大局からみた水資源と食料の地位」
- 2) Dr. Raj Khosla（ラジ コスラ）（コロラド州立大学教授、国際精密農業学会長）
“Emerging topics in precision agriculture”
「精密農業における最新の技術管理動向」
- 3) 斎藤 誠一（日本学術会議連携会員・北海道大学大学院農学研究院教授）
“Hot spots on ocean fishery using RS/GPS techniques”
「RS/GPS 技術を用いた大洋漁業の新展開」
- 4) Ir. Sari Vigrwati（サリ ビグラワチ）（国立ペンナングナム・ベテラン大学ジョグジャカルタ校講師、持続的開発のための人材教育プロジェクトリーダー）
“Social experiment on community-based precision paddy in Central Java”
「ジャワ島中部におけるコミュニティベース精密水稲作導入の社会実験」

II パネル討論（15：00～16：50）

テーマ：Food-valley with Precision Agriculture

（精密農業によるフードバレー構想の展望）

司会進行 澁澤 栄（日本学術会議連携会員・東京農工大学大学院農学研究院教授）

パネリスト 米沢則寿（帯広市長）

金山紀久（帯広畜産大学副学長）

Mr. Marc Vanacht（マーク バナハト，前掲）

Dr. Raj Khosla（ラジ コスラ，前掲）

Ir. Sari Vigrwati（サリ ビグラワチ，前掲）

閉会あいさつ：澁澤 栄（日本学術会議連携会員・東京農工大学大学院農学研究院教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

17	
幹事会	125

提 案

公開シンポジウム「シミュレーション・予測と情報公開に求められることー今・これからー」
の開催について

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：総合工学委員会計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共 催：日本機械学会、日本応用数理学会、日本計算工学会、
日本シミュレーション学会、
JACM(Japan Association for Computational Mechanics)、
アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合
3. 日 時：平成 23年 7月 14日(木) 13:30 ～ 18:00
4. 場 所：日本学会会議講堂
5. 分科会の開催：総合工学委員会計算科学シミュレーションと工学設計分科会開催
6. 開催趣旨：

東日本大震災に際する震災被害は、単に震災そのものに起因するだけでなく、災害についての情報の伝達、公開が大きな課題となっていることは周知のことである。近い将来災害やその予測に関連する情報には、シミュレーションと予測に関連する多くの有用な情報が含まれるべきであるが、それらの情報の伝達、公開は、国民の要求を十分に満たしていない現状がある。災害に対するシミュレーションと予測の学術結果や情報を、どのように発信し、伝達し、公表してゆくことが重要かについて、本シンポジウムは、学術、マスメディア、国民とともに幅広い見地から議論、検討する契機とする。

7. 次 第：

13：30 開会の辞：

矢川元基（日本学術会議第三部会員・総合工学委員会委員長、東洋大学大学院工学研究科教授・計算力学研究センター長）

13：40 講演1「シミュレーションと予測、海洋シミュレーション」

山形俊男（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教授、東京大学大学院理学系研究科長）

14：00 講演2「大気拡散シミュレーション」

鈴木 靖（京都大学防災研究所水文環境システム研究領域教授）

14：20 講演3「原子力と安全性」

松浦祥次郎（原子力安全研究協会理事長）

14：40 講演4「学術研究とアウトリーチ」

早野龍吾（東京大学大学院理学系研究科・理学部教授）

15：00 講演5「科学技術と情報公開」

有本建男（(独)科学技術振興機構社会科学開発センター長）

15：20 講演6「災害時における心理と安全の社会学」

広瀬弘忠（東京女子大学現代教養学部教授）

15：40 講演7「サイエンスコミュニケーション」

小出重幸（読売新聞社元編集委員）

16：00（休憩）

16：15～17：50 パネルディスカッション

司会：高橋桂子（日本学術会議連携会員、(独)海洋研究開発機構地球シミュレータセンタープログラムディレクター）

17：50 閉会の辞：

萩原一郎（日本学術会議連携会員 総合工学委員会計算科学シミュレーションと工学設計分科会委員長 東京工業大学大学院理工学研究科 教授）

18：00 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

18	
幹事会	125

提 案

公開シンポジウム「新時代の昆虫科学を拓く2」の開催について

1. 提案者 農学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会、日本昆虫科学連合
2. 日 時：平成23年7月16日（土）13：00～17：20
3. 場 所：名古屋大学野依記念学術交流館（名古屋市千種区不老町）
4. 分科会の開催：分科会開催予定
5. 開催趣旨：

農学委員会応用昆虫学分科会は、我が国における昆虫科学および関連学問分野の研究・教育の推進とこの分野の社会的な普及を目的に、国内における昆虫科学研究者コミュニティの構築を目指し、活動してきた。平成21年3月に応用昆虫学分科会の呼び掛けに昆虫科学関連学協会が応えるかたちで準備委員会が組織され、平成22年7月に「日本昆虫科学連合」が設立された。この連合が、自由で活発な学術情報の交換を可能にし、昆虫科学の一層の発展を支える基盤となることを期待し、昨年設立記念公開シンポジウムに引き続き、各学会の目指す昆虫科学研究の最先端を紹介していただき、相互理解を深める。

次 第：

開 会 (13:00)

- I 日本昆虫科学連合活動報告 (13:05～13:20)
山下 興亜 (日本学術会議連携会員、中部大学学長)

II 応用昆虫学分科会からの「報告」(13:20~13:35)

藤崎 憲治 (日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授)

III 講演 (13:35~17:15)

1) 演題未定

演者未定 (所属; 日本農薬学会)

2) アジアにおける昆虫媒介性感染症とそのベクター

澤辺 京子 (国立感染症研究所昆虫医科学部; 日本衛生動物学会)

3) 食品への昆虫混入とその防止法

宮ノ下 明大 (農研機構食品総合研究所食品害虫ユニット長; 日本家屋害虫学会)

4) アルカロイド利用昆虫の化学生態学

本田 計一 (広島大学大学院生物圏科学研究科教授; 日本鱗翅学会)

5) トンボにおける色彩多型の発生・進化機構

二橋 亮 (産業技術総合研究所研究員; 日本動物学会)

閉会 (17:20)

6. 関係部の承認の有無: 第二部承認

19	
幹事会	125

提 案

公開シンポジウム「市民社会のなかの人文・社会科学－市民との対話－ PARTⅢ」の開催について

1. 提案者 第一部長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議第一部、九州大学
2. 後 援 (財)日本学術協力財団
3. 日 時 平成23年7月24日(日) 14:00～17:00
4. 場 所 九州大学西新プラザ(福岡県福岡市早良区西新2-16-23)
5. 部 会 平成23年7月23日(土) 14:00～17:00
平成23年7月24日(日) 10:00～12:00

6. 開催趣旨

一昨年(2011年)の北海道大学、昨年(2012年)の東北大学で開催した第一部夏季部会の経験を踏まえ、今年、九州大学で開催する夏季部会においても、日本学術会議の活動の一環として、人文・社会科学の諸学問が現代社会に生起している様々な課題にいかに関与しているか周知することを目的に、「市民公開シンポジウム 市民社会のなかの人文・社会科学－市民との対話－ PARTⅢ」を開催する。

講演のテーマとしては「大震災と人文・社会科学の課題」を取り上げるものである。

7. 次 第

開会挨拶(14:00～14:15)

小林 良彰(日本学術会議第一部長、慶應義塾大学法学部教授・同大学多文化市民意識研究センター長)

有川 節夫(九州大学総長) 交渉中

司会

木村 茂光（日本学術会議第一部副部長、東京学芸大学教育学部教授）

講演「大震災と人文・社会科学の課題」（14:15～16:50）

（1）高齢者の支援について

秋山 弘子（日本学術会議第一部会員、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授）

（2）地域復興のデザイン

碓井 照子（日本学術会議第一部会員、奈良大学文学部地理学科教授）

（3）震災後の雇用と景気対策

樋口 美雄（日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学商学部教授）

（4）わが国の企業経営実態－震災に耐えうる強い底力－

白田 佳子（日本学術会議第一部会員、筑波大学大学院ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻教授）

閉会挨拶（16:50～17:00）

吾郷 眞一（日本学術会議会員、日本学術会議九州地区会議代表幹事、九州大学大学院法学研究院教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

20	
幹事会	125

提 案

公開シンポジウム「新たな歯科医療制度を考える II」の開催について

1. 提案者 歯学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：歯学委員会歯科医療制度に関する検討分科会
2. 後 援：日本医歯薬アカデミー（予定）
3. 日 時：平成 23 年 7 月 25 日（月）13:00-16:30
4. 場 所：日本学会議講堂
5. 分科会：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

我が国は近年、若年者層におけるう蝕の著しい減少がみられる一方、超高齢社会を迎え、要介護者や寝たきり老人、重度の全身疾患を有する患者の増加等、歯科医療を求める患者層および疾病構造が大きく変化しつつあり、また今後も大きく変化することが予想される。こうした歯科医療に対する社会のニーズの著しい変化に対応するためには、今後歯科医療は大きく変わることが求められている。また近年の歯科医療の発展に伴い、新しい治療法、治療用材料・機器が開発され、歯科医療は年々多様化、高度化している。今後、これらの多様化、高度化した治療を国民に効率的に供給する体制を構築するかについても検討する必要がある。

こうした社会の歯科医療に対するニーズの変化、ならびに疾病構造の変化を明らかにし、新しい歯科医療制度について検討する事を目的として、2010年12月17日に、第1回の公開シンポジウム「新たな歯科医療制度を考える」を開催した。

第1回シンポジウム開催後に分科会で議論した結果、当初の目的を達成するには第1回シンポジウムに加えて、さらなる検討の場が必要と判断し、第2回シンポジウムを開催することとした。

7. シンポジウム次第

○主催者側挨拶 渡邊誠（日本学術会議第二部会員・同歯学委員会委員長、東北福祉大学総合福祉学部教授、感性福祉研究所副所長）

○趣旨と進行の説明

座長：戸塚靖則（日本学術会議第二部会員、北海道大学病院副病院長）
古谷野潔（日本学術会議連携会員、九州大学大学院歯学研究院教授）

○講演（予定）

1. 「歯科医療経済から見た現状分析と対策」
川淵孝一（東京医科歯科大学大学院医療経済学分野教授）
2. 「日本の歯科医療制度と国際比較」
尾崎哲則（日本大学歯学部教授）
3. 「歯科の適正医療費を考える」
中道勇（中道歯科医院院長）
4. 「保険収載の範囲ならびに自費診療の位置づけと先進医療の促進」
鳥山佳則（厚生労働省保険局歯科保険管理官）

○質疑と討論

○閉会の挨拶 戸塚靖則（日本学術会議第二部会員、北海道大学病院副病院長）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

2 1	
幹事会	1 2 5

提 案

日本学術会議近畿地区会議学術講演会の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主催 日本学術会議近畿地区会議，京都大学
- 2 日時 平成23年7月30日（土） 13:00 ～17:00（予定）
- 5 会場 京都大学芝蘭会館稲盛ホール
- 6 概要

(テーマ) 世界の目から見た日本の大学評価（仮）

(開催趣旨)

近年、高等教育の国際化が進展し、世界の主要大学を研究、教育や行政面で評価する動きが目立ってきた。たとえば、Times Higher Educationの世界大学ランキングをはじめとする調査では、英語を母語とする著名な欧米の大学（大学院）が首位グループを占めている。一方、それらの国々と、文化や歴史の異なる大学の評価は、どのようになされているのであろうか？国際評価の基準を知り、問題があれば改善を考え、それを自身の改革に生かすことは重要である。日本の大学にとって、その将来展望を考える上で、世界の目から見た大学評価は重要であり、政府が進める国際化拠点整備事業（グローバル30）にも参考となるであろう。今回の講演会開催の趣旨は、ランキングに一喜一憂することなく、国際評価がどのような基準でなされているのかを明らかにし、本邦の大学の未来に向けてその国際展望を拓くことを目的とする。

(プログラム) (予定)

開催挨拶 苧阪直行（日本学術会議第一部会員・近畿地区会議代表幹事、京都大学名誉教授）

「世界の大学評価：最近の動向と問題点（仮）」 榎木哲夫（京都大学大学院工学研究科教授・理事補、京都大学国際交流推進機構副機構長）

「世界の大学評価からみた日本の大学（仮）」 依田高典（京都大学大学院経済学研究科教授）

「世界の大学評価：その評価基準について（仮）」 講演者2名、コメンテータ1名、閉会挨拶（交渉中）

2 2	
幹事会	1 2 5

提 案

公開シンポジウム「進化する生物の世界ー生体高分子から生物多様性、
脳-神経系から人間社会まで」の開催について

1. 提案者 基礎生物学委員会委員長・統合生物学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：基礎生物学委員会進化・系統学分科会、日本進化学会
2. 共 催：京都大学グローバル COE プログラム
3. 日 時：平成23年7月31日（日）13：00～16：00
4. 場 所：京都大学時計台百年記念ホール
5. 分科会の開催：分科会開催予定

6. 開催趣旨：

高校生や一般人を対象にした公開シンポジウムである。地球上に生息する生き物のダイナミックな進化の様子を、DNA やタンパク質などの変異から、単細胞の生物、多細胞生物の生理的な表現型可塑性やエピジェネティクスを介して生物多様性へ、さらには動物の脳ー神経系が司る学習行動から人間の言語の進化まで広く観ることで、生物進化の新しい理解を探るとともに、進化学最前線の面白さを若い世代にやさしく伝えたい。なお、平成24年度から施行される新学習指導要領の高校生物にも一部対応したテーマが新たな切り口で展開されるので、進化教育にも資する企画である。当分科会の設置目的である「進化・系統学分野の学協会等の連絡・連携、及び当該分野の 発展を期すための調査審議並びに情報発信を目的とする」に合致している。

7. 次 第：

コーディネーター

嶋田 正和（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

長谷部 光泰（日本学術会議連携会員、自然科学研究機構基礎生物学研究所教授）

演題・演者等（予定、交渉中のものも含み、演題はすべて仮題）

長谷部 光泰（日本学術会議連携会員、自然科学研究機構基礎生物学研究所教授）

「はじめにー現代進化生物学の面白さ」

山岸 明彦（東京薬科大学教授）

「過酷な環境に生きる古細菌の進化」

加藤 茂明（東京大学分子細胞生物学研究所教授）

「表現型を変化させるエピジェネティクスの仕組み」

清水 健太郎（チューリッヒ大学植物生物学研究院准教授）

「植物の適応進化」

伊藤 元己（東京大学大学院総合文化研究科教授）

「生命情報学（バイオインフォマティクス）と生物多様性の話題」

岡ノ谷 一夫（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教授）

「脳ー神経系における鳥の嘯り学習、さらに人間の言語進化へ」

岡田 典弘（東京工業大学生命理工学部教授）

「種分化の分子基盤： ヴィクトリア湖の魚たち」

嶋田 正和（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

「おわりにー進化学の最前線と進化教育の新しい展開： 新学習指導要領への高大連携」

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

23	
幹事会	125

提 案

市民公開講演会「光触媒とメカトロニクスの世界：未来を支える科学・技術」の開催について

1. 提案者 第三部部長
2. 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議第三部、東北大学
2. 後 援：日本学術協力財団、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会
3. 日 時：平成23年8月8日（月）15：00～17：00
4. 場 所：東北大学片平キャンパス さくらホール2階会議室
5. 分科会の開催：第三部会を開催
6. 開催趣旨：

日本学術会議第三部の夏季部会を東北大学で8月8日と9日に行なう。これに付随して、市民公開講演会を実施する。講師は一人は学術会議側から選出し、もう一人は、主催者の東北大学から選出した。
7. 次 第：
 - ・開会挨拶 岩澤 康裕（日本学術会議第三部部長、電気通信大学燃料電池イノベーション研究センター長・特任教授）
 - ・来賓挨拶 井上 明久（日本学術会議連携会員、東北大学総長）
 - ・テーマ1 「研究も教育も感動から ―光触媒」

藤嶋 昭（日本学術会議第三部会員、東京理科大学学長）

- ・テーマ2 「半導体集積回路に異分野技術を融合したマイクロシステム」

江刺 正喜（日本学術会議連携会員、東北大学大学院工学研究科附属マイクロナノマシンング研究教育センター長・教授）

司会：後藤 俊夫（日本学術会議第三部副部長、中部大学副学長）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

24	
幹事会	125

提 案

公開シンポジウム「感覚器医学ロードマップ：感覚器障害の克服と支援を目指す10年間の中間報告会」の開催について

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会感覚器分科会
2. 後 援：日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会
3. 日 時：平成23年8月9日（火）14：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

「感覚器医学ロードマップ：感覚器障害の克服と支援を目指す10年間の中間報告会」としてシンポジウムを企画した。

ロードマップに沿って過去5年間の進歩と今後の5年間の課題についてシンポジウム形式で公開討論を行う。
7. 次 第：

開会のことば：根木 昭（日本眼科学会理事長）

 - I. 感覚器の再生研究

座長：伊藤壽一（日本学術会議連携会員、京都大学大学院医学研究科教授）

 - ・ 視器の再生研究の進歩

高橋政代 (理化学研究所発生・再生科学総合研究センター網膜再生
医療研究チームリーダー)

・聴器の再生研究の進歩

白馬伸洋 (愛媛大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科講師)

II. 感覚器障害の治療の研究

座長：石橋達朗 (日本学術会議連携会員、九州大学医学部眼科教授)

・視器障害の治療の進歩

石田 晋 (北海道大学大学院医学研究科・医学部教授)

・聴器障害の治療の進歩

中川 隆之 (京都大学医学部附属病院、京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科講師)

III. 人工感覚器の進歩

座長：加我君孝 (日本学術会議連携会員、感覚器分科会委員長、(独)
国立病院機構東京医療センター感覚器センター長)

・人工視覚の開発

不二門 尚 (大阪大学大学院医学系研究科・医学部教授)

・人工聴覚の開発

宇佐美 真一 (信州大学医学部耳鼻咽喉科学教授)

討論「現在の課題と展望」

座長：本田孔士 (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)

閉会のことば：八木聰明 (日本学術会議連携会員、人間環境大学学長、日本耳鼻咽喉科学会理事長)

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

25	
幹事会	125

提 案

公開国際シンポジウム「東北アジアにおける地表プロセス、自然災害そして歴史的環境変動 (Earth surface processes, natural disasters and historical environmental changes in North-east Asia)」の開催について

1. 提案者 地球惑星科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：地球惑星科学委員会 IGU 分科会
日本地形学連合
金沢大学環日本海域環境研究センター
韓国地質資源研究院 (KIGAM)
国立台湾大学
2. 日 時：平成23年9月1日(木) 9:00～16:00
3. 場 所：金沢大学 金沢市角間町
4. 分科会の開催：無し
5. 開催趣旨：
国際シンポジウムの主な目的は、東アジアモンスーンの影響が顕著であり、気候変動の基本が共通である東北アジア地域において湖沼一流域系等の地形系を対象に、地表プロセスの解明と自然災害との関係、そして歴史時代の環境変動(過去2000年間)に関する日韓を中心とした情報を交換することである。歴史時代は比較的環境変動に関する情報が得られやすいという利点があり、代替資料に含まれる自然変動の記録だけではなく、人為的な活動に関する記録も残されている。従って、観測記録の他に代替記録や文書記録から自然災害や環境変動に関する情報が得られるならば、現在の地表プロセスと環境変動・自然災害の関係から過

去のプロセスと変動や自然災害の関係に関する手がかりが得られる可能性があり、今後の自然災害等の対応等にも資することになる。

また、今回の大災害に鑑み、巨大地震と地形災害に関するセッションを加え、1995年阪神淡路大震災、1999年台湾集集大地震、2008年中国四川大地震を中心とした地形災害との比較検討を進めることにした。

6. 次 第：

- ・ 9:00～12:00 セッション1：地表プロセスと自然災害・環境変動

挨 拶

柏谷健二（日本学術会議特任連携会員、金沢大学日本海域環境研究センター教授、IGU 分科会委員）

発 表

金沢大学、韓国地質資源研究院、中国延辺大学、他

コメント

野上道男（日本学術会議連携会員、東京都立大学名誉教授、IGU 分科会委員）

- ・ 13:00～16:00 セッション2：巨大地震と地形災害

1995年 阪神淡路大地震

沖村孝（日本学術会議連携会員、神戸大学名誉教授）

1999年 台湾集集地震

林 俊全（国立台湾大学教授）

2008年 中国四川地震

唐 川（成都理工大学教授）

2011年 東日本大震災

田村俊和（日本学術会議連携会員、立正大学地球環境科学部教授）

他

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

26	
幹事会	125

提 案

公開シンポジウム「大規模計算科学シンポジウム」の開催について

1. 提案者 総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会、科学技術振興機構
2. 共 催：日本機械学会、日本応用数理学会、日本計算工学会、
日本シミュレーション学会、JACM(Japan Association for Computational Mechanics)、日本計算数理工学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合（いずれも予定）
3. 日 時：平成23年10月17日（月）10：00～17：50
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催： 計算科学シミュレーションと工学設計分科会を開催する。
6. 開催趣旨：
材料・生体の分子・量子科学、工学、地球・天文科学など、空間的にも時間的にもマルチなスケールで、かつ、多くの異なる物理からなるマルチフィジックス現象を対象とした研究が世界中で進められてきており、新しい成果が数多く得られつつある。本シンポジウムにおいては、これらの研究課題の中で、気象、地球温暖化、地震災害、宇宙科学等の連続体力学を基礎としたマクロな現象を解析する分野を対象として、モデル化や数値計算手法等のシミュレーションの根幹に関わる問題について内外で活躍しているトップクラスの研究者を招聘して講演とパネル討論を行う。これにより、各研究課題に特有の理論・技術と、複数の研究課題に共通のものが明らかになり、研究課題の枠を超えたより大きな

成果が得られることが期待される。

7. 次 第：

10:00～10:10

開催挨拶：矢川元基（日本学術会議第3部会員・総合工学委員会委員長、東洋大学大学院計算力学研究センター長・大学院教授）

10:10～12:00 講演 1 （気象・海洋）

司会：佐藤正樹（（独）海洋研究開発機構地球環境変動領域チームリーダー）

Jaiho Oh（釜山国立大学教授）

Development of early warning system for urban flooding with global to local precipitation and flooding model（全球・局地降水洪水モデルによる都市洪水の早期警戒システムの開発）

Matthew Hecht（ロスアラモス国立研究所研究員）

Eddy resolving ocean modeling for climate studies（気候研究に向けた渦解像海洋モデリング）

Keith Rodgers（プリンストン大学教授）

Modeling the ocean carbon cycle: What are the critical scales and critical process for predicting 21st century change
（海洋炭素循環モデリング：21世紀の予測に重要なスケールとプロセスとは？）

13:00～14:50 講演 2 （地震・防災）

司会：松浦充宏（情報・システム研究機構統計数理研究所教授）

Y-J Kim（成均館大学教授・前副学長）

Computer based on-line monitoring system for nuclear power plants in Korea
（韓国における原子力発電プラントのコンピュータ利用オンライン監視システム）

John B. Rundle（カリフォルニア大学教授）

Earthquake physics and forecasting through numerical simulations and space-time seismicity pattern analysis
（地震の物理と数値シミュレーション及び時空間地震活動パターン解析による予測）

Richard A. Luettich (ノースカロライナ大学教授)

Large scale hurricane storm surge simulation using ADCIRC system (ADCIRC
システムを用いた大規模ハリケーン洪水シミュレーション)

15:10~17:40 パネルディスカッション

コーディネータ：矢川元基

パネリスト：

臼井英之 (神戸大学 教授)

高橋桂子 (日本学術会議連携会員(独)海洋研究開発機構 地球
シミュレータセンタープログラムディレクター)

羽角博康 (東京大学教授)

山中康裕 (北海道大学大学院教授)

吉村忍 (日本学術会議連携会員東京大学大学院工学系教授)

Matthew Hecht (ロシアラモス国立研究所研究員)

Y-J Kim (成均館大学教授・前副学長)

Richard A. Luettich (ノースカロライナ大学教授)

Jaiho Oh (釜山国立大学教授)

Keith Rodgers (プリンストン大学教授)

John B. Rundle (カリフォルニア大学教授)

17:40~17:50

閉会挨拶：萩原一郎 (日本学術会議連携会員・計算科学シミュレーションと工学
設計分科会委員長、東京工業大学理工学研究科教授)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

27	
幹事会	123

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
第13回日本感性工学会大会 ① 主催：日本感性工学会 ② 期間：平成23年9月3日から5日 ③ 場所：工学院大学新宿キャンパス	日本感性工学会 会長 椎塚久雄	第三部
日本熱物性シンポジウム ① 主催：日本熱物性学会 ② 期間：平成23年11月21日から23日 ③ 場所：慶應義塾大学キャンパス	日本熱物性学会 会長 馬場哲也	第三部